

すすむ炭労春闘

すでに実力第3波まで決意

炭労は第七十四回臨時大会の決定にもとずき、大会終了後の翌二月十六日、政府ならびに資本に対し、次の要求を提出した。

- ①新石炭政策の確立。
- ②長期生産計画の明示。
- ③月額五万七千四百円の賃上げ。
- ④五万円の特別一時金。
- ⑤特定休日増加。

昨年末政府は、石炭見直しを言明したものの、依然第五次石炭政

八百万共闘の中で

策(スクラップ方式)を基調としたものから一歩も出ずこれは真の拡大生産とはならない。それはばかりか、かえって労働強化を押しつけ、あるいはますます深刻な事態を招く結果となることは必至。

そこで炭労は、炭鉱労働者の生活を擁護し、真に石炭産業を発展させるために、この春闘をきつかけとして闘うハラの固めることになったのである。

発展するその足ざり

要求は新石炭政策ほか

新石炭政策の確立、五万円のインフレ手当、五万七千四百円の賃上げ、特定休日の増加—などの重要な要求を掲げながらすすんでいる炭労の春闘は、早くも七百二十四時間、十二日三時四十八時間、さらに十五日六日同様に四十八時間—と、三波までのストライキ計画も確立、重大な決意をもって発展している。



発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町2
電話 ③3033 番
③3034 番
編集兼人 山下 開
発行人 山下 開
半年間600円 送料共

炭労、英炭鉱 労組へカンパ

【連合】日本炭鉱労働組合(里谷和夫委員長、一万人)は二月十九日、イギリス炭鉱労働者の大幅賃上げ、総選挙勝利を要求する無期限全面ストを支援して、組合員一人二十円、総額三十三万円のカンパを送った。炭労では「英労働者の闘いはわたくしたちの闘いと同じ。心から連帯を表明する」と語っている。

企業の責任、を追及 日経連とトップ会談

春闘共闘委員会の大木事務局長、日経連の榎田常任理事、松崎専務理事らと、トップ会談を営み、日経連のインフレ対策について、労働側 申入れの基本的な考え方、インフレの強硬な打撃に對し共同歩調で政府に働きかけることにある。

日経連 インフレ要因をヤミカルテルなどだけにおくのは殺生だ。輸入価格の高騰や過剰流動性などが問題だ。インフレ克服については昨年十一月に日経連として見解を出したが、日経連は経済界を統制するのではなく、教育的努力はしきりに賃上げ抑制をキャンパ

インフレ対策について

日経連 (労働側の具体的提案に對して) ほんとうに困っている人に、かりに三百万人に対して年間百万円ずつ二年間払ってやる。政府は足りない分を国債でまかなったらどうか。

労働側 この問題では双方の気持ちが一つになれぬと思う。政府内部の意見不一致に對して、双方で押すべきだ。

日経連 共同歩調はとれる。賛成だ。

公共料金について 日経連 すえおきには賛成だが、電力は問題になるだろう。

三井鉱山が石炭液化を計画

記事はいくらか吉いが「石炭液化実験、三井鉱山も成功」という、一月三十日の毎日新聞の記事を、参考までに紹介すると—

石油危機をきっかけに石炭が見直されているが、三井鉱山は二十九日、石炭の液化実験に成功、二月中にも本格的な生産計画をまとめる方針を明らかにした。

石炭の液化は、米國を中心として技術開発が急がれている。国内では通産省工業技術院の九州工業技術研究所(鳥栖市)がこのほど液化技術の実

英炭労組ストへ高まる連帯

ストライキ三週目を迎える英炭鉱労働者の闘いに、各国労働者の支援がよせられている。西ドイツ労働者のスト、同國への石炭搬入中止を決めた。

【連合】

CO患者・浦浜さん急逝

新たに燃える怒り

突然の死に広がる不安

宮島重信さんについて、また一人CO患者の組合員が急逝、CO中毒症の恐ろしさをまざまざと見せつけた。

去る二十日、長期療養中のCO患者の浦浜隆正さん(58才)が、大牟田市新港社宅二十七棟の自宅



故・浦浜隆正さん

で急逝した。わりの人々が気づいたときには、すでに倒れていて言葉もなく、同僚の吉田院長もいそぎかけつけ、手をついたものの、浦浜さんは、とうとうそのまゝ息をきき取って

浦浜さんは、昭和四十二年十月二十五日、労災補償を打ち切られ、患者の一人。だがその後、かくされぬ病状から経過観察に切り換えられ、四十七年一月一日より長期療養を補償された人。

浦浜さんは自宅から通院治療するが、万田回復指導所で回復訓練を受けていたところ、昨年

倒れてから間もなく、同日の午後二時五分ごろのいひ。

「うきまほやまて人と楽しく語り合ひ、自分で茶などいれるほど日常とまったく変わるところがなかったのに、一転して襲った死だ。だから、かえってすべてのCO患者の胸に暗い不安をかき立てる結果となった。

あの災害後CO患者の死は、浦浜さんが十四人目(三池労組関係)。恐ろしく死に切れたかったら、三池労組の組合員・家族は心から哀悼の意を表し、資本に對する怒りを燃えあがらせた。

十二月同訓練所で昏倒。曜病院に入院。

その後元気を回復、「これなら」と安んじていたときだっただけに、おどろきも大きく、妻の信子さん(47才)の悲しみも深いに相違なく。

改めて三井独占資本に對する怒りが広がっている。